



なおや
山本尚弥君

7月に開催された「くらしき吉備真備杯こども棋聖戦予選」小学校低学年の部（1～3年生）で優勝し、平成31年1月に倉敷市で開催される全国大会に三重県代表として出場する山本尚弥君（橋北小学校3年生）にお話を伺いました。

老若男女、各分野で活躍するさまざまな「四日市人」取材して、その人の言葉で四日市の魅力などをお伝えするコーナーです。

■CTY「ちゃんねるよっかいち」でも紹介します。

日時：12月1日～31日
月水金日 9：30、20：30
火木土 12：30、20：30

■CTY-FMで毎月第2・第4日曜日放送の「よっかいちわいわい人探訪！」でも紹介します。

日時：12月9日、23日
8：54、14：54

■きっかけは“たまたま”

去年の夏、回覧で「夏休み子ども囲碁教室」の案内を見て、たまたまその日が空いていたので申し込んでみました。何回目かの日に「対局をやってみよう」ということになって、幼稚園の女の子に負けて、悔しくて大泣きしてしまいました。そこでスイッチが入ったと思います。

それから、橋北囲碁クラブの先生に、「ここに打ちにおいで」と誘ってもらって、通うようになりました。今は週に5日ほど、橋北囲碁クラブやクラブの会員の家、四日市囲碁センターなどで囲碁を打っています。

■頭の中に棋譜が出てくる

初めは全く勝てなくて、悔しくて泣いてばかりいました。囲碁の本で勉強するために市立図書館にも通いましたが、子ども向けの本は少なく、同じ本を続けて借りて、何度も繰り返し読んでいました。

段々と囲碁のことが分かるようになってきて、今では詰碁の本を1日に2～5冊ほど読んでいます。家族には「気が付くと囲碁の本を読んでいる」と言われるし、実際そのとおりです。頭の中は詰碁ばかりで、ずっと棋譜が出てきます。



■夢中になれるのは“楽しい”から



囲碁はゲームやインターネットでも対局できますが、実際に人と顔を合わせて対局する方が好きです。碁石を触って、盤面を見て、打つ音を聞いて、五感を使って打つのが囲碁の魅力だと思います。

戦いになって、相手の石を取るのが面白いです。対局で負けると悔しいけれど、「次、頑張ろう」と思えるのは、やっぱり囲碁が楽しいからです。囲碁は四千年以上の歴史があって、いろいろな年齢の人と対等に戦えるのも楽しいです。ぜひ橋北囲碁クラブに見に来てください。対局しましょう。

■全国大会 目指すは優勝！

7月の予選に勝ったので、来年1月に倉敷市で開催される全国大会に三重県代表として出場します。まだどんな相手と当たるか分かりませんが、目標は優勝です。



▲橋北囲碁クラブのメンバーと

将来はプロになって、「山本流」という打ち方を作るのが夢です。囲碁の魅力や楽しさを、次の年代の子に教えられるようになればいいなと思っています。

有料広告掲載欄



店頭・出張買取りOK!
創業106年の歴史と信頼・実績!



文 智の屋小町

タンスの中に眠っていませんか？大量のお着物もお気軽に！

着物買取り

貴金属・ジュエリーも高価買取り中!



059-352-4253

■四日市市鶴の森1丁目7-13
■9時～18時（木曜定休）

本欄は広告であり、広告の内容に関する一切の責任は広告主に帰属します。